



作品を手にとれば、和紙の手触りも楽しめる

色鮮やかな和紙の作品がずらり 天神産紙工場の「和紙創作展」

「和紙創作展」(界限づくり委員会主催)が12月7・8の両日、天神産紙工場で開催されました。手漉き和紙の技・人・文化を伝え、暮らしの中で和紙を楽しんでほしい、と毎年開催。折り紙や和紙のピアス・髪留めなどの作品を展示販売しています。和紙職人の成見優子さんは「かわいい和紙を使った作品づくりは楽しい。少しずつ作品が増えているので、ぜひ見てほしい」と笑顔で話しました。



版画の仕方を一から学んで年賀はがき作りに挑戦

凧の材料、和紙の魅力に触れよう 凧博物館でものづくり体験講座を初開催

「五十崎凧博物館体験講座」が12月8・14の両日、凧博物館で開催されました。地元の作家・山田きよさんと岡野千鶴さんを講師に迎え、8日はシルクスクリーンの年賀はがき、14日は折り紙でクリスマスの飾りを作りました。年賀はがきを作った城戸美佐さんは「一色ずつ刷って重ねるので、一枚一枚に違いがでて面白い。初挑戦だけど、楽しく制作できた」と満足そうに話しました。



筆の使い方などを教えながら実演する城本さん

子どもたちに夢を与えたい 画家・城本敏由樹さんが講演会

コミュニティスクール活動の一環とした「第1回おだのふれあい講演会」が12月13日、小田小・中学校体育館で開催されました。講師は小田地域出身で世界的に活躍する画家・城本敏由樹さん。城本さんは自身が画家になるまでの話や目の前で絵を描くパフォーマンスを披露し、「小田の子どもたちが夢を持って、その夢が必ずかなうように」と、「夢」という文字を描いて学校に寄贈しました。



さまざまな方法で表現された内子町を楽しむ来場者

オンラインの作家集団が内子に集結 初開催の「いちげ温泉」展覧会

町内在住のデザイナー・市毛友一郎さんが主宰するクリエイター集団「いちげ温泉」の展覧会が12月15～25日の間、内子町ビジターセンターで開催され、海外を含む作家32人が出展しました。大洲和紙のちぎり絵など、内子や愛媛をモチーフにした100点以上が並び、来場者を楽しませていました。市毛さんは「内子のアートフェスティバルになるよう、毎年開催したい」と意気込みました。

内子座で羽ばたくダンスの文化 「県民総合文化祭モダンダンス公演」

愛媛県県民総合文化祭は10月から12月の間、「羽ばたけ 愛媛の文化 令和を開く」をテーマに開かれ、県内各地でさまざまな文化芸術活動が行われました。内子町ではモダンダンス公演が11月24日、内子座で開催されました。愛媛現代舞踊協会の会員など、87人による幅広いジャンルの創作ダンス・12演目が披露され、個性あふれる舞台に惜しみない拍手が送られていました。



愛媛現代舞踊協会作品「天女」

「命の神様」の生涯を学芸会の劇に—— 小田小4年生がふるさと学習の成果発表

小田小学校の学芸会が11月24日、文化交流センターサルで行われ、4年生が名誉町民・丸井千年氏の生涯を劇で発表しました。丸井氏は小田に内科小児科院を開業して57年間、へき地医療に専念。医院の経営に苦しみながらも貧しい人を治療し、住民から「命の神様」と呼ばれていました。劇はふるさと学習の成果。丸井氏の優しさを上手に表現した内容で、会場は大きな感動に包まれました。



「尊い命に貧富の差はない」と、丸井先生を演じる児童

旧二宮邸は子どもたちの学習の舞台 大学生と学ぶ、ふるさとの昔の暮らし

「にのみやていでふるさとについて学ぼう」が11月27日、旧二宮邸で開催されました。小田小3年生の「むかしの暮らし」の授業に、愛媛大学社会共創学部・井口梓研究室が協力。地域住民5人も語り部として参加し、昔の林業の様子や民具の使い方などを教えました。語り部役の西岡修さんは「昔の話をする貴重な機会。地域の文化が消えないよう、上手に子どもたちに伝えたい」と話しました。



みのかさの使い方を学び、実際に身に着けてみる

園児の大好きな絵本をプレゼント 国際ソロプチミスト大洲の贈呈式

国際ソロプチミスト大洲から大瀬保育園(森美紀園長、園児32人)に絵本が贈られ、11月28日に贈呈式が行われました。同団体の代表者2人が「たくさん絵本を持ってきたので、みんなで仲良く読んでね」と呼び掛けながら、園児たちに本を手渡しました。森園長は「絵本に親しむことで、感情が豊かになる。園では読み聞かせに積極的に取り組んでいるので、ありがたい」と感謝しました。



お気に入りの絵本を持って記念撮影